時は屬句の動詞は其數に於て it に係かるときもあり或は其紹介する名詞に係かるときもありて一定せず例へば It is no more I that do it の文に於て that は I に係かるものとしたるが故に動詞の do も亦一人稱と爲れり然り斯の如き文に於ては that は it に係かるべきものなるを以て do は does と爲るべき筈なれども習慣上補欠語の一人稱若しくは二人稱代名詞なる時は其補欠語に係くるとあり之に反して It is a wise head and a good heart that constitutes a great man.(偉人を成すものは明智と善心なり)の文に於て that は it に係かるものにして若し補欠語に係かるものなる時は constitutes は constitute と爲るなり即ち此文を嚴格なる順序に改めむとすれば

It that constitutes a great man is a wise head and a good heart.

と爲るべきなり

畢竟 it は豫設的主辭の一種に過ぎず然れども純粹なる豫設的主辭は其之に係かる形容詞句を有せず例へば It is impossible to please every one の如き文に於て it は to please every one の豫設的主辭にして實際の主辭を當然の位置に据ゆれば it を倒るを得即ち此文は To please every one is impossible と爲るが如し又實際の主辭が單に名詞なる時其組立全く豫設的主辭の同格辭の如きとあり例へば It is very curious, this animal の文に於て it は this animal の豫設的主辭なれども其組立より云へば殆んど it の同格辭なるに似たり然れども其實此文の意は This animal

is very curious に過ぎず此組立方は往々佛語にありて直に之を其儘英文としたるものにして俗文には用ゆるを多しと雖文としては佳良とし難く隨て學ぶべきに非ず

10. 關係代名詞にして其格の目的格たる時に限りて之を略するを俗文には之あり例へば He is a man whom I trust の whom を略するを得又 Here is the letter which I received に於て which を略するを得るが如し然れども此關係代名詞が主辭なる時は假令古文には省略したる例なきに非ずと雖普通は之を略すべきものに非ず唯 but 若しくは than の如き比較或は反對の對比を爲す時は其之に次ぐ所の關係代名詞を略するなり例へば There was no one but knew him 或は I have no more than is sufficient for me の如き文に於て前者は but の次に who を略し後者は than の次に what を略したるものと看做して可なり然れども之に就いては文典家の說一致せず或は此 but を代名詞に代用したるものと爲す者あり又關係代名詞にして先行辭を略するとあり其例詩に多し Who will may go 行かむと欲する者は行くを得の文に於て who の前に he 或は any one を略せるが如し

11. 二個以上の關係代名詞句にして皆同一の先行辭に係かりて接續詞を以て結び付けらるゝ時は其名詞の關係代名詞は同一のものたらざる可からず例へば

"Noun" is the name of any person or thing which exists or which we many conceive to exist.

の文に於て二個の which は or に由りて結び付けらるゝ

を以て其一方を that の如き語に變ずる能はず之に反し若し二個の關係代名詞句にして接續詞を以て結び付けられざるものは其異なれる關係代名詞を使用せざる可からず例へば

There are many things that you can speak of, which can not be seen.(汝の語り得る事物にして見へざるもの夥多あり)

の文に於て that.....of と which.....seen との二個の關係代名詞句は一方は that を用ゐ他方は which を用ゐたるが如し是れ兩者同一の者を使用すれば其文中の先行辭に對する關係の疎密を示す能はざるが爲め斯くせるものにして此處にて you can speak of は thing と關係密なるを以て that を前に置けるなり故に之を解剖する時は that .....of の句は things に係かり which.....seen の句は things .....of の全句に係かるものと看做して可なり

形 容 詞

形容詞は名詞或は代名詞を形容するもの爲れども時として其名詞或は代名詞を略するとあり例へば Farthest from his is best の文に於て farthest 及び best は the place なる名詞を略せるものにして「彼より最も遠き處は最良の場所なり」との意なり

1. 又形容詞にして其前に定冠詞を前置する時は往々其名詞を略するとあり殊に性質を示す形容詞は或は其性質を有せるものゝ全體を指すとあり或は其特殊のものを示すとあり或は其性質を抽象的に示すとあり例

へば the beautiful と稱する時は美なる者の全體を示して beautiful persons 或は beautiful things の意なるとあり若しくは一個の事物を指すと the beautiful woman の如きとあり若しくは其性質を示して beauty に代用するとあり然れども普通は其性質を帶びたるものゝ全體を示すに在り

2. 形容詞は直に普通其形容する所の名詞に先行する者なり例へば a great man の如し然れども代名詞を形容する時は之に次ぐ例へば They left me weary on the grassy turf. の如し今形容詞が名詞に次ぐ場合を擧ぐれば下の如し

a. 他に形容詞に係かる語ありて之を擴張する時は例へば a mind conscious of right(正義を知る所の心) a wall a foot thick (厚一呎の壁) an army ten thousand strong (一萬人の軍)の如し但し形容詞句にして名詞に先きだつとなきに非ず例へば the never-to-be-forgotten event (決して忘る可からざる出來事)の如し此構造は往々にして見る所なれども素と一の形容詞と看做して用ゐたるものにして特に不定動詞句ある時多しとす

b. 二個の目的辭を取る動詞にして其一個の目的辭のみ名詞と爲り他の目的辭は形容詞に由りて其位置を代られたる時は其形容詞は名詞に次ぐ例へば

Men agree to call vinegar sour, honey sweet, and aloes bitter.

(人は一致して醋を酸しと云ひ蜜を甘しと云ひ又蘆薈を苦しと云ふ)

の如し

c. 歎稱を示す時形容詞は名詞に次ぐことあり例へば goodness infinite (無限の善) wisdom unsearchable (探究し難き智能)の如し

d. 形容詞は其名詞を離れて動詞に次ぐことあり例へば He stands convicted of the crime (彼は其罪確定したり)の文に於て convicted は he を形容するが如し

e. 形容詞にして a の接頭字を有せるもの例へば afraid, alike, alive, alone, asleep, awake, aware, averse, ashamed, askew の如し是等の語は決して名詞に前置するを得ず

f. 形容詞にして其性質分詞の如きものは名詞に次ぐ例へば a queen regnant (實權を有せる女帝) prince regent (攝政なる皇子) heir apparent (嗣子) の如し

g. 詩に於ては形容詞と名詞と其位置を變ずるも差支なき例多し

乙. 又其他の普通文に於ても位置を變ずるも妨げなきもの頗多あり例へば a notary public (公證人) とし或は public notary とするが如し

丙. 形容の前に副詞ある時例へば a being infinitely wise (無限の智能を有せる實在)の如し

丁. 數個の形容詞連なりて一の名詞を形容する時例へば a great, good and wise man 又は a man great, good and wise とするが如し

戊. 文中形容詞に語勢を加へんとする時之を文首に置くことあり例へば Blessed are the pure in heart (心の潔白なる者は天福を享く) The greater his crime is, the heavier is

his punishment(彼れの罪大なれば之に隨ひて其罰重し)の如し

3. 形容詞の前置詞を有して名詞を略する時副詞に代用することあり例へば in particular は in a particular manner の略にして其意 particularly と同じく in general も亦 generally と異なるをなし

4. 形容詞は普通單複の區別を有せざれども代名詞的形容詞は之と異なり單數のみを形容するもの或は複數のみを形容するものあり例へば this man, that man, many men, a few men の如し是れ普通の規則なれど集合名詞は單數の形態の儘複數の形容詞を取るとあり例へば many sail (船) many stand of arms (銃) many head of cattle(家畜の數頭) many brace of partridge (鳴鶉數對) の如し又 foot 及び horse の如きは其形態に由りて意味の異なるとあり例へば a thousand feet と稱する時は足千本或は千呎の意なれども a thousand foot とする時は歩兵千人なり horse も亦 a thousand horses と云ふ時は馬千頭の意なれども a thousand horse とする時は騎兵千人なり

5. 分詞にして形容詞に代用せられたる時は直接に目的辭を支配するを得ず故に其目的辭を間接目的辭とせざる可からず例へば

The man who is most sparing of his words is generally most deserving of attention. (其言語を最も節約する人は常に最も着目する價値あり)

の文に於て sparing 及び deserving は動詞としては直接目

的辭を支配すれども形容詞の如く用ゐらるゝ時は其次に of を挿入せざる可からず故に此文の形容詞を省きて動詞に改むれば

The man who most spares his words, generally most deserves attention.

と爲るなり

冠　詞

冠詞は已に云へるが如く形容詞の一種なり

1. 冠詞は名詞に前置するものにして單に此詞のみを以て名詞に次ぐをなし例へば Passion is the drunkenness of the mind (情慾は心の酩酊せるものなり) の如し而して名詞が形容詞を有する時は冠詞は其名詞との間に形容詞を置く例へば a concise writer の如し然れども或る場合には自から形容詞と名詞との間に挿るをあり例へば both the men, half a yen の如し

2. 冠詞の位置を換ふるものは重もに代名詞的形容詞にして此等の形容詞は冠詞を要せざるものあり或は冠詞の前に置かるゝものあり即ち前者は any, such, either, much, neither, no, some, this, that, these, those にして後者は all, both, many, such 及び what 是れなり例へは all the people, both the men, many a house, such a tree, what a fool の如し又性質を示す形容詞は其前に too, so, as, how の副詞ありて之に制限せらるゝ時は冠詞の前に置かるゝなり例へば Too great a study for so foolish a man 又は Here is as clear a stream, as any in Greece. How beautiful a prospect is here (此處に希臘に於

ける川流に劣らざる程の川流あり此處に如何に絶美なる眺望ありや)の如し而して冠詞に次ぐ代名詞的形容詞は few, former, first, latter, last, little, one, other 及び same 是なり

3. Many は定冠詞に次ぐをあり又不定冠詞の前に置くをあり例へば the many friends 及び many a man の如し

4. 形容詞にして too, so, as, how の外他の副詞に先行さるゝ時は冠詞は其副詞の前に置かるゝものなり例へば a very great friend, the most complete submission の如し唯 quite は冠詞を其前に置くをあり或は其次に置くをあり

5. This, that の如き形容詞は不定冠詞を其次に置く能はざれども其代りに one の代名詞的形容詞を次に置くをあり例へば this one thing 或は that one friend の如し

6. 形容詞の其名詞に次ぐ時は冠詞は直に名詞の前に置かるゝものなり例へば a man ignorant of science の如し然れども定冠詞は其名詞と形容詞との間に置かるゝ場合もあり例へば Book the Second, Henry the Third の句は the Second Book, the Third Henry と同意なり

7. 意味上人稱代名詞の領格を置くべき所に定冠詞を代用するをあり例へば He looked him full in the face の文に於て the は his の意なり

8. 二個以上の形容詞にして一個の名詞を形容し且の接續詞に由りて結び付けらるゝ時は其形容詞の前に各冠詞を加ふべきか否やに就いては種々の異說あり然

れども普通の規則は形容詞にして and に由りて接續せらるゝ時例へば a black and a white horse の如く各形容詞が冠詞を有する時は名詞は各形容詞に係かるものにして同一の事物を形容するものとせざるに在り即ち此句の意は a black horse and a white horse にして前者の horse を略したるものとす之に反し a black and white horse の如く white の前に不定冠詞なき時は一種の馬を指して其黑白の斑あるを云ふ. 定冠詞の前置されたる時亦然り例へば the black and white horse とする時は一種の黑白の班ある馬を指し the black and the white horse とする時は黑き馬と白き馬と二種の馬を指す若し又後者の the を略して名詞を複數とする時即ち the black and white horses, は以上兩樣の意に用ゐらるゝが故に其黑白の班ある馬を指さむには區別を明かにせむが爲め black and white の句を black-and-white の如く hyphen を加へて其一種なるを示せる文章家もあり是れ然らざれば二種の馬と誤認さるゝを避く可からざればなり且つ後者の the を略したる時は異種のものと看做すを常とすればなり

9. 關係代名詞が限定の意を有する時は其先行辭の前に定冠詞或は之に類似せる代名詞的形容詞即ち this, these, that, those を要す例へば All the men who were present agree to it. 又は The things which are pleasing to one man may be displeasing to another. の如し

同格辭

同格辭は其先行辭に對しては形容詞の如き働作を爲

すものなり

1. 先行辭の領格なる時其同格辭も亦領格なれども形態上は其一のみにて足れり例へば for Herodias' sake his brother Philip's wife (彼れの兄弟の妻たる Herodias の爲めに)の句は新約書中に在り wife は Herodias の同格辭にして brother は Philip の同格辭なれども其形態は領格の趣を有せず今之を敷衍すれば for the sake of Herodias, the wife of his brother Philip と爲るものにして之に由りて先行辭と同格辭の關係を明知するを得べし

2. 領格名詞或は代名詞は其同格辭を as に由りて結び付くるとあり例へば I rejoice in your success as an instructor (余は汝の教員として成功するを喜ぶ)の如し

3. 同格辭は先行辭として一文を有するとあり例へば He permitted me to consult his library—a kindness which I shall not forget. (彼は余に其書齋に出入するとを許せり是れ余が爲には忘る能はざる慈惠なり)の如し

4. 分配的形容詞は單數なれども複數語の同格辭たるとあり例へば They went everyone his own way (彼等は各其道を行けり)の文に於て every one は單數なれども they と同格辭なり又二個の同一なる單數語が by に由りて結び付けられたる時複數語の同格辭と爲る例へば They went out one by one の文に於て one by one は二個の單數語の by に由りて結び付けられたるものなれども此處にては複數の they の同格辭と爲れるが如し然り此句は斯の如く同格辭と看做して差支なしと雖一方より見れば went

out を形容する所の副詞句と看做すを得而して其副詞句の性質を帶ぶるは to examine a book page by page, to search a place house by house の句に徴して明かなり

5. 普通名詞と固有名詞が相接して同格句を爲すをあり例へば the river Thames, the poet Tennyson, Lake Superior の如し然れども地名の場合には普通名詞と固有名詞との間に of を挿入するをあり例へば the city of Tokyo, the island of Formosa の如し然れども之を Tokyo City 及び Formosa Island とするも其意異ならざるなり

領　格

領格に在る名詞或は代名詞は領有物の名詞に由りて支配さるゝものなり

領格の用法に就いては別に言ふべき所なし Accidence に於て領格と of の前置詞を有する名詞にして共に領格の意を有して兩個對比する時前者は主體的領格にして後者は客體的領格なるとは已に述べたり (p.24. を見よ)例へば Hideyoshi's invasion of Corea の Hideyoshi's は主體的にして of Corea は客體的なるが如し即ち秀吉は侵入者にして高麗は侵入せられたる者なり然り斯の如く兩形態雙立する時は上述の如しと雖唯一個のみなる時は其孰れの意にも用ゆるを得例へば the death of my friend と my friend's death とは同意にして my friends' burial と the burial of my friend も亦同一の意味なるが如し然れども概して言へば名詞の他働詞に基因せる者は其支配する所の領格名詞にして他に理由あるに非ざるよりは客體的の意

を有せる時は之を客體的領格とするを宜しとす但主體的領格の形態を有するとも其意味曖昧に陷ゐる患なき時のみに之を用ゆるは差支なきものとす例へば my friend's burial と云ふ時は單に此語のみにては果して友人の埋葬さるゝものか將た他人を埋葬するか明瞭を欠き文章の前後を審にするに非ざれば其如何を決す可からず然るに若し my friend's burial の語に of his father を加ふれば friend's は主體的と爲り其義理明白と爲りて毫も疑を容るべきものなきが如し

主體的領格は之を支配する所の名詞の前に直に置くべきものたるは敢て言ふまでもなしと雖但其支配する名詞の前に形容詞を挿むことを妨けざるものとす例へば my friend's eldest brother の如し然れども或る場合には領格の前に其形容詞を置くをありて該形容詞は何れの語を形容するか判然たらざるをあり例へば

He put on a large man's hat.

の如き文に於て large は man's を支配するか hat を支配するか形態のみにては定むるを能はず唯文章の意味に由りて決すべきなり而して若し hat を形容する者とすれば man's hat (男の帽子)は一個の phrase と看做して可なり

又支配する所の名詞にして前に在る時は其領格の次に來る者を略するをあり例へば The book is the boy's の文に於て boy's の次に book を略するが如し

領格名詞二個以上ありて接續詞に由りて接續せらる時之を支配する名詞が各別に領格辭を支配する場合に

在りては其領格名詞は各領格の形態を存せざる可からず然れども名詞にして領格名詞の全體を支配する場合に於ては唯最後の領格名詞のみ領格の形態を具ふる者なり例へば

A father's or mother's sister is an aunt.

の文に於て sister は father と mother とを各別に支配す即ち父の姉妹或は母の姉妹の伯叔母なりとの義なり又 John's and James's sisters の句に於ては John 及び James は各數人の姉妹を有せるを意味すれども若し之を John and James's sisters と云ふ時は John 及び James の姉妹の意にして同一の人を指すに在り即ち John と James とは兄弟たるを示すなり

合成名詞も領格なる時は('s)を其語尾に附するものなり例へば my brother-in-law's house の如し又假令合成名詞に非ずと雖一句にして合成名詞の如く看做し得る者も亦然り例へば the Duke of Bridgewater's Canal (Bridgewater 公の堀割) the Lord Mayor of London's authority (倫敦市長の權勢)の如し其他古文には The beggar's daughter of Bethnal Green (Bethnal公園の乞食の娘)の如き句あれども今日は斯の如き形態を用ゐず即ち句の甚だ長き時は('s)を附せずして of を前置するを普通とす故に上例の如きは之を the daughter of the beggar of Bethnal Green とするが如し

不定動詞

不定動詞は普通前置詞の to を以て定動詞に關聯するものなり例へば I wish to learn の如し然れども不定動

詞の關聯する者は必らずしも定動詞に限れるに非ず何れの詞品にも之あり例へば

名詞	This is not the time to speak of the matter.
代名詞	It is for him to decide.
他の不定動詞	I want to learn to swim.
分詞	Trying to climb up the tree, he fell down and hurt himself.
副詞	You must run fast to catch the train.
接續詞	I went not to see my brother, but to meet my friend

不定動詞の用法は非常に多くして其中重もなる者を擧ぐれば下の如し

1. 他の動詞に附隨して其意味を完了せしむる者
   I undertake to do the work.
2. 目的を表はす者
   I went to see the man.
3. 情慾の目的を表はす者
   He wishes to learn English.
4. 情慾の原因たる者
   They were glad to see him.
5. 一文一句の主辭たる者
   To learn is every student's object.
6. 一文中連動詞の補欠語たる者
   My object was to learn.

7. 將來の出來事を表はす者

She shall rejoice in time to come.

8. 必然の意を表はす者

It is to be remembered.

9. 比較計量の意を有する者

He was so good as to write me a letter.

不定動詞及び分詞にして其意自働的なれども又行働的の形態を有せる者あり例へばI have work to do, a hous to sell, a house to let は順次 to be done, to be sold, to be let の意なり

不定動詞は普通前置詞のtoを前置する者なれども又此toを略するもあり

I 助動詞に次ぐ時例へばI can see, shall see, will see may see, must see の如し而して唯toを存すべき者は ought のみ例へばI ought to see の如し

II. Bid, dare, feel, hear, let, make, need 及び see の諸動詞に次ぐ時例へばI bid him go, you dare not speak, I felt it move, he heard the bird sing, let them go, we made the man laugh, they need not stay の如し但し是等の動詞中toを存する場合なきに非ず例へば dare はtoを存するも略するも共に差支なしと雖普通の語には略するを多しとす need, feel も亦然り

Help の次に不定動詞の來る時toを略する場合あり例へばto help carry the box の如し然れども是れ重もに米國に行はるゝ使用法にして英國の能文家は必らずいと採

ひなり

分 詞

分詞は普通其形容する名詞の次に置かるゝものにして之を以て分詞と同じき形態を有する形容詞と區別するなり例へば

It was a matter deserving every attention.

He was a very deserving man.

の如し

然れども其長き phrase を爲す時は其名詞の前に置くもあり例へば

Respected by both friends and enemies, he lived a blameless life.

の如し

現在分詞は其形態名詞狀動詞と異ならざるを以て往々區別の明かならざるもあり然れども概言すれば分詞は其係る所の名詞代名詞を有し名詞狀動詞は之を有せず往々冠詞を前置するを得るを以て其孰れなるかを區別するなり例へば

分詞 Always observing this rule, he succeeded in his object.

名詞狀動詞 By the observing of this rule, he succeeded in his object.

の如し

又名詞狀動詞は其支配する所の目的辭を間接目的辭とし上例の如く前置詞のofを間に挿むものなり

分詞及び名詞狀動詞は孰れも濫に文中に入れずして

他に得る所あるに非ざれば之を避くるを可とす例へば分詞に於ては不定動詞或は形容詞を以て足るものは之を代用し名詞狀動詞に在りては其動詞より基因する名詞にして動作或は情態を示すものあれば之を代用するを往々にして之あり例へば分詞に於ては I saw him running と書く代りに I saw him run とし名詞狀動詞に在りては By the observing of this ruleの上例の代りに By the observance of this rule とするが如し

殊に see, hear, 及び feel の動詞の次に現在分詞を用ゆるを往々にして之あり例へば

I saw him running, I feel it coming, he heard her singing の文あれども是等は各其不定動詞に改むるも差支なし又 begin 及び continueの意を有せる動詞も亦動作の基始或は繼續を表する時は其動作を意味せる語往々にして即ち現在分詞なり是れ進行的の意を有するものなれども又之を不定動詞に改むるを妨げず

然れども下の三種の動詞は其支配する動詞を分詞とせざる可からず

I. 休止の意を有せる動詞例へば They have done speaking. The man refrained from talking. They left off playing. の如し但し forbear の語は分詞又は不定動詞を支配するとあり

II. 妨止の意を有せる動詞例へば We are prevented from going. They hinder us from doing it. の如し因に云ふ prevent は其妨止する動作を現在分詞とし妨止さるゝ事

物は或は目的格と爲り或は領格と爲るをを得即ち上例の如く目的格なる時は其次に前置詞の from を置きて現在分詞を支配せしむべきものにして時に此 from を略する文なきに非ざれども是れ誤と云はざる可からず又第二例の文に於ける目的辭を領格に改むれば They hinder our doing it. と爲るなり

III. 忌避の意を有せる動詞例へば We may avoid making mistakes. I cannot help seeing him. の如し

副詞

副詞は時々名詞或は代名詞に前置して形容詞の如く用ゐらるゝことあり例へば the then king, the very man の如し然れども the then の如き語は文中往々にして見る所なれども餘り宜しきを得たるものに非ず

副詞は名詞の代りに用ゐらるゝことあり例へば Yet for once we will try. の文に於て once は副詞なれども此處にては名詞の如く用ゐられ前置詞の for の支配を受くるものなり

副詞は動詞を略して殆んど動詞の如き働きを爲すことあり例へば I will hence to London の文に於て hence は go を其前に略せるものなり

又動詞を略し其目的辭の前に with を加へて動詞の働きを爲すことあり例へば Away with him の文は Take him away の意なり其他 up with it, down with it, out with it の如き句あり是等は孰れも bring, take, send の如き行働的の動詞を略せるものなり

接續詞的副詞は副詞にして接續詞の用務を爲すものなるが故に其接續する兩句に對して副詞の働きを爲すなり例へばI shall see you when I come の文に於て when は接續詞的副詞にして see 及び come の兩動詞を形容するが如し而して之を敷衍すればI shall see you at the time at which I come と爲るなり

副詞の配置に就いては定まれる規則なしと雖此配置の如く誤り易きものなきを以て下に其概則を示さむと欲す

副詞にして形容詞或は他の副詞を形容する時は普通之に前置するものなり例へば I am very happy 又は He looked at him extremely angrily の如し

合成動詞に屬する者は普通第一の助動詞の次に置く例へば He had long been dead の如し然れども若し此副詞の語勢を强よめむと欲すれば其動詞の全體の後に置くべし

單純なる動詞或は分詞を形容するものは其前後一定することなし例へばI see him often 或は I often see him の孰れにても意味上差支なきが如し

然れども普通の習慣に在りては副詞は單純なる自働詞に係る時は其動詞の後に置くものなり例へばHe sleeps well の如し斯の如く短文に於ては副詞を動詞の前に置くを極めて稀なるものなり

他働詞に係る副詞は其動詞の目的辭の後に置くものなり例へば I saw him today. の如し然れども目的辭の長

き時即ち長き句を爲せるか若しくは他の phrase に因りて形容さるゝ時は副詞は通常動詞と目的辭の間に置かるゝなり例へばI see quite well what you mean. の如し但し文に勢を附するが爲め時に副詞の位置を變ずるとなきに非ず

副詞の位置に就いて一般の規則は他に修辭上の理由あるに非ざれば其係る所の語句に最も近く置くに在りとす

不定動詞に係るものは往々其前置詞のtoと動詞との間に置く然れども是れ餘り宜しきを得たるものに非ず即ち米國の文學者中或は英米新聞等には往々見る所なれども英國の大家は努めて之を避くるを以て宜しく學ふとある可からず

今茲に副詞中通常其用法或は位置を誤り易きものに就いて聊か述ぶる所あらむ

1. 副詞のnoは獨立する時は其全文を略せるものなり即ち問に對して答ふる時或は否定的の文意を一層强よめむとする時noと一語を加ふるとあるのみ

Noの度量を示す時は必らず比較級の形容詞或は副詞に係るものなり例へばno more, no better, no greater, no sooner の如し又noと比較級の形容詞とが其係る所の名詞に對する位置如何に就いては大に文の意味を變ずるとあり而して此句が名詞に先だつ時は無上の意を示し其後に來る時は比較的の意を表はすなり例へば There are no better statesmen than A. and B. と云ふ時はA及びBは

優等なる行政家にして何處を求むるも之に優る者なしとの意なるを以てA及びBを稱賛したるなり之に反しThere are statesmen no better than A. and B. と云ふ時はA及びBは劣等なる行政家なれども彼等の如き行政家は尙他にも有りとの意なり即ち前例に於てはnoは意味上areに係るものにしてA及びBに優れる行政家なしと云ふに在れども後例に於てはnoは意味上betterに係りA及びBに優らざる行政家往々にして有りと云ふに在りてA及びBの優等ならざるを明かに示すものなり

Noは直に名詞に係る時は必らず形容詞なり例へばno man, no bodyの如し

2. Ever及びneverは正反對の意を有せるものなれども其使用を混同する場合あり即ち其次にsoと形容詞或は副詞を以て構成せる句ある時是れなり例へば(彼れが如何に賢人なりとするも此事は了解し能はざるべし)との文ありと假定せひに之を譯するに

Were he ever so wise, he could not understand it.

とする者あり或は

Were he never so wise, he could not understand it.

とする者あり其用法區々にして名家中孰れを採る者もあり殊にBible等にはneverを用ゐれども普通の會話にはeverを用ゆるを常とす而してever so wiseに於てeverを用ゆる者は此句をhow wise soeverの略と看做しneverを用ゆる者は前句をif he were never to be so wise as he is now即ち彼れは現に有るが如く決して再び賢明なる能

はずとするもと解するなり然り解釋上何れも正しきに似たれども普通はeverを用ゆるを正しとす

3. Onlyの位置の如く誤り易きもの少し而して同一の文と雖此語の位置如何に因りて其意味變ずるなり例へば

(甲) He only talked with themの文に於てはonlyはtalked with themの句を形容するものにして重きをtalkedに置くなり故に此文の意は彼れは彼等と談話したるのみにして彼等と共に他に何事をも爲さゝりしと云ふに在り

(乙) He talked only with them. の文に於てはonlyはwith themを形容する者にして彼れは彼等とのみ談話せり即ち其他の者とは談話を爲さゝりしとの意なり

(丙) He talked with them only. の文は彼等とのみ談話せりと云ふものなれども其意は他人と談話するならむと豫期したるに斯くせざりしとの意にして多少意外の意義を含めり但し此例にては其意明かならざる點あれども若しHe gave me a yen only. と云ふ時は彼は余に數圓を與ふるならむと思ひけるに僅に一圓の外與へざりしとの意を暗に有するが如し

(丁) Only he talked with themの文に於ては彼れのみ彼等と談話せりとの意にしてonlyはheに係るものなり然れども此文は稍曖昧なればonlyは時として文の全部に係りて殆んど接續詞の如く看做され文の前後の關係に因りて或は取り除けの意を有しbutの弱き意を含ましめらるゝとあり故に上例の如き場合に於て彼れのみと

の意を明かにせむと欲せば only の代りに alone を用ゐて He alone talked with them (即ち其處に他の人居たれども彼等と談話を爲したるは彼れのみ)とすべし

4. Not only.....but also の句は往々其位置に就いて誤りを來すとあり而して此句は素と Correlative conjunction として用ゐらるゝものなれども今 only の用法を述ぶる序なるを以て併せて玆に一言すべし例へば(彼れが彼等に食物と衣服を與へり)と云はむに (甲) He gave them food and clothing とすれば單に二品を與へしと云ふに止まり乙) He gave them both food and clothing. と云ふ時は其意(甲)の場合より重きを二品に置きたるものにして彼れは食物を與へ衣服をも與へりとの意と爲る (丙) He gave them not only food, but also clothing. と云ふ時は彼れの食物を與へしとは豫期し居たれども彼れは其れのみならず衣服をも與へたりとの意にして此處にて but は稍意外の義を含めり又 not only——but also の對句は對語の前に置かざる可からず上例の如き短文には之を誤るの患なしと雖往々動詞の前に not only を置きて He not only gave food, but also clothing. と書く者あり然れども斯の如くする時は動詞と名詞の clothing と對比するが如くなるを以て其組立誤れりと云はざるを得ず又(日清戰爭は歐洲の注意を獨り日本に惹けるのみならず東亞細亞全體にも惹けり)と云ふに當り之を下の如く譯すれば

The war between Japan and China drew the attention of Europe not only to Japan, but also to the whole of East Asia.

は日本と東亞細亞を別個とすれば差支なけれども日本は勿論東亞細亞の一部分なるが故に此譯文を正確と爲すを得ず如何となれば not only——but also は別個の物を對比するものにして一方が他を含蓄する者に對して用ゆるを得ず故に强て此對句を用ゐむと欲せば the whole of East Asia を the rest of East Asia 即ち East Asia 中日本以外の者とせざる可からず然れども only に代ふるに alone を以てし also を省く時は上の譯文の如くにて差支なし如何となれば alone を用ゆれば日本は東亞細亞の一部分たるとを暗に示せばなり然る時は譯文の後部は not Japan alone, but the whole of East Asia と爲るなり

5. Not を接續詞の and と共に用ゆる時意味曖昧なる場合あり例へば John and James were not present と云ふ時は John と James は居らざりしとの意にして兩人一處に居らざりしと雖 John のみ或は James のみ其處に居りしや知る可からず故に John も James も兩人共に居らざりしと云はむには and—not を用ゐず neither—nor を用ゐざる可からず即ち Neither John nor James was present とせざる可からず(此事に就いては作文欄二百六頁を參照せよ)

前置詞

前置詞を解剖するには其支配する所の名詞のみならず其名詞に關聯する語をも明かにせざる可からず即ち共に前置句を構成せる所の名詞と其前置詞の係る語とを知らざる可からず斯の如く前置詞は二語に關聯する者なれども修辭上の作用に因りて或は文の冒頭に在る

をあり或は文の末後に來るをあり例へば To me the experience was new. の文に於て to は文の冒頭に在れども普通文典上の順序に復すれば to me の句は new の次に置かざる可からず即ち to は me を new に關聯せしむるものなり又 This thing they knew nothing of の文に於て of は文の末後に在れども普通の順序にては this thing は of の次に來りて文の末後に在らざる可からず即ち of は this thing を nothing に關聯せしむるものなり

前置詞の關聯せる二語中の一は或は略せるをあり例へば In a word, it would be useless の文に於て in a word (一口に云へば)の句は其關聯せる語を略せる者にして之を備ふれば I say の如き語なかる可からず又 I know the man you speak of. の文に於て of は其支配する所の語を略せる者にして敷衍すれば you の前に whom の語なかる可からず

前置詞は其名の如く支配する所の名詞或は代名詞に前置するものなり然れども俗文に在りては關係代名詞或は疑問代名詞を支配する時其代名詞を離れて句末に來るをあり例へば To whom did he speak? と云ふべきを Whom did he speak to? とするが如し又關係代名詞を略して其前置詞を句末に置くをあり即ち上例の I know the man you speak of の如し

二級以上の前置詞は詩歌に於ては往々其支配する名詞の後に置けるをあり又普通文にも其例なきに非ず例へば Known all over the world の代りに Known all the world

over を以てするが如し

前置詞は時として二個連續するをあり是れ後者は名詞を支配し前者は後者の成せる全部を支配するものなり例へば Eight men were chosen from among them (彼等中より八人選ばれたり)の文に於て among は them を支配し from は among them の句を支配するが如し

前置詞の用法に就いては別に困難なるをなし唯困難なるは名詞形容詞動詞或は副詞中其後に定まりたる前置詞を要する語に在りとす是等の語は習慣上既に一定し其語數も非常に多きが故に到底悉く之を本欄に收む可からず因りて其要する所の前置詞二種以上あり爲めに其意味の變ずる者に就き其一班を示すべし

Admission (許可)は人に近づくを許さるの意には to を用ゐ (admission to a person) 場所に對しては into を要す (admission into a place.)

Affinity (和合) analogy (類似) quarrel (爭論)等二個の相對する意を有せる語は其中の一個が他に對する意を有せる時は with を用ゐ (affinity with something, analogy with another, quarrel with another person) 二個の間の關係を示すには between を要す (affinity, analogy, quarrel between two persons)

Attendance は人に侍する意を有す時には on を要し attendance on a person) 場所に出づるの意には at を要す attendance at a place)

Competition は人と競爭する意には with を要し (competition with a person) 事物に對し競爭する時は for を要す

(competition for a thing)

Engagement は業に就くの意には in を要し (engagement in a business) 人と契約する意には with を要す (engagement with a person)

Experience (經驗)は物に對する時は of を要し (experience of a thing) 事を爲す時に於て經驗の意には in を要す (experience in doing something)

Freedom (自由)は苦痛心配等を免る意には from を要し (freedom from care) 動作等の自由を示すには of を要し (freedom of action)

Gratitude (感謝)は其原因に對しては for を要し (gratitude for a thing) 恩人に對しては to を要す (gratitude to a person)

Grief (憂愁)は出來事に對しては at を要し (grief at an event) 人の爲め痛苦を感ずる意には for を要し (grief for a person)

Libel (讒謗)は人に對する時は on を要し (libel on a person) 其人の名譽に對する時は against を要す (libel against his character)

Taste は味即ち經驗の意には of を要し (taste of hard work) 趣好の意には for を要す (taste for hard work)

Angry (怒れる)は事物に對する時は at を要す (angry at a thing) 人に對する時は with を要す (angry with a person)

Annoyed (煩はさる)は煩はさる事物に對しては at を要し (annoyed at a thing) 人には with を要し其煩はす行爲に對しては for を要す即ち annoyed with a person for saying or

doing something の如し

Clothed は衣服或は色を示す語には in を要し (clothed in purple) 比喩に用ゆる時は with を要す (clothed with shame)

Concerned は何か出來事に對し心痛せるときは at 或は about を要し (concerned at or about a mishap) 人の爲め憂慮する時は for を用ゐ (concerned for a person's welfare) 事業に關係せる意には in を要す (concerned in some business)

Disappointed は得る能はざるものに對して失望の意には of を要し (disappointed of a thing not obtained) 得たる者の意に滿たざるが故に失望する意には in を要し (disappointed in a thing obtained) 人に對しては with を要す (disappointed with a person)

Eager は得ひと欲して熱心なる意には for を要し (eager for honour) 爲せる業務に熱心なる意には in を要す (eager in the pursuit of knowledge)

Familiar は事物を熟知する意には with を要し (familiar with the work) 他人に能く知らるゝ意には to を要す (familiar to a person)

Impatient は自分が其境遇に堪へざるの意には of を要し (impatient of reproof) 渇望に堪へずの意には for を要す (impatient for food)

Moved (感動する) は人の哀願等に動かさるゝの意には by を (moved by entreaties) 自分が見て感動する時は at を (moved at the sight) 其感情に感ぜるには with を (moved with pity) 感動の結果として落涙に到れる意には to を要す

(moved to tears)

Satisfied (滿足する)は何か事に就き疑を存せる時之を確めて自から滿足する意には of を(satisfied of a fact)單に自己の境遇或は位置に滿足せる意には with を要す (satisfied with a position)

Tired (疲る)は倦むの意には of を (tired of doing nothing) 疲るの意には with を要す (tired with his exertions)

Admit (許す)は何か先方より言ふを容るの意には of を (admit of an excuse)秘密若しくは仲間に容るゝとの意には to 或は into を要す (admit to or into a secret)

Agree (同意す)は人と同意するには with を (agree with a person) 申込に同意するには to を要す (agree to a proposal)

Ask (請ふ)は物を請求する意には for を (ask for a thing) 人に請求する意には of 或は from を要す (ask of or from a person)

Call (呼ぶ)は人を訪ふ意には on を (call on a person) 人を促す意には upon を (call upon) 人を呼ぶには to を (call to a person) 請求する意には for を要す (call for punishment)

Compare (比較する)は事物を比較する意には with を (compare man with beasts) 比喩の意には to を要す (compare life to a journey)

Deal (取引する)は取引する物品に對しては in を (deal in cloth, tea, spices, etc.)人には with を要す (deal with a man)

Die (死する)は病氣の爲め死せるに對しては of を (die of a disease) 他の原因より死せるには from を要す (die from

some cause)

Impress (感銘する)は人に思想を感銘する意には impress an idea on a person として思想を以て人に感銘せしむるには impress a person with an idea とす

Inquire (問ふ)は事を取調ぶる意には into を (inquire into a matter) 事に就いて人に問合すには人に對して of を事に對して about 或は concerning を要す (inquire of a person about or concerning some matter)

Lean (凭る)は壁の如きものに凭れる意には against を (lean against a wall) 自己の躰を支へむが爲め杖等に凭れるには on を要す (lean on a staff)

Look (見る)は事業等を監視する意には after を (look after some business) 人或は物を睇視する意には at を (look at a person or thing) 調査の意には into を (look into a matter)搜索の意には for を (look for something lost) 一寸通覽するには over を要す (look over an account)

Make(造る)は盜むの意には away with を (make away with money) 導き或は自から向ふ意には for を (make for happiness) 近づくの意には up to を要す (make up to a person)

Search (探る)は搜索の意には for を (search for something lost) 取調の意には into を要す (search into a matter)

Succeed (成功する)は相續の意には to を (succeed to a property) 成功の意には in を要す (succeed in an undertaking)

Supply (供給する)は物を人に供給するには supply a thing to a person 或は supply a person with a thing とす

Talk(話す)は出來事に就いて話すには of 或は about を(talk of or about an event) 事物を議する意には over を要し(talk over a matter) 其相手に對しては to 或は with を要す(talk to or with a person)

接續詞

接續詞の主たる用務は文を連絡するものにして語句を接續するは其從たる用務に屬し必らず接續詞は悉く語句を接續するものに非ず即ち Co-ordinate conjunction は語句を接續するとあれども Subordinate conjunction に在りては決して然らず但し單語を接續するが如く見ゆる例なきに非ずと雖是れ全く動詞を略したるものに過ぎず例へば The house is a small, though heavy building の文に於て though は small と heavy との二個の形容詞の間に挾まりて之を接續するが如き觀を爲せども其實次に it is の語を略せるものにして本文の儘にては完全なる文と云ふを得ず且つ斯の如き結構は俗文には有れども嚴格なる文章中には見ること稀れなり今茲に二三の接續詞に就いて聊か述ぶる所あるべし

As は普通接續詞の使用即ち「時に」或は「故に」の意を有する場合の外同格辭又は補欠語を紹介するに用ゆるとあり例へば I assume it as a fact. (余は之を事實と假定す) He was employed as teacher.(彼は教員に雇はれたり) Addison as a writer of prose is highly distinguished. (Addison は散文家として大に著名なり)の如し其他之に類する用法にして as は名詞と其名詞を形容する所の形容詞或は分詞の間に

挾まるとあり例へば Mt. Fuji, as seen from the sea, presents an imposing view の如し

As は關係代名詞の如く用ゆるとあり(本欄第六十頁を參照せよ)

As の接續詞たる用法に就いて一疑問の存するものあり即ち He is angry as appears by this letter. (彼は此書柬に依れば忿怒す)の文に於て as の詞品如何是なり或は之を關係代名詞と看做し appears の主辭と爲す者あれども吾人の見を以てすれば矢張り接續詞として其次に Impersonal の it を略せるものと看做す可きなり

As follows の句に就いて其次に來る所の項目複數なる時 follows を其儘に存す可きか將た follow として複數とす可きかは其使用區々として或は項目の單複に拘はらず常に as follows とする者あり或は複數の時は follow とする者あり例へば The conditions are as follow (條件は下の如し)の文に於て之を follows とする者あるが如し然れども斯の如き場合には follow の主辭は則ち紹介する項目を指すものなるが故に複數とする方可なり as concern (s) の句も亦然り

Than は其次ぐ所の名詞と之に對比する名詞と同格たらざる可からず例へば The man gave him more than me. の文に於て me の前には he gave の句を略せるものにして即ち me は him に比較たるが故に之と同格なり之に反して The man gave him more than I. の文に於ては I の次に gave him の句を略せるものにして即ち I は man に比

較したる故に之と同格なりasの對比する時亦同一にして其比較する所の名詞或は代名詞は同格たらざる可からず即ち前例に於けるが如く The man gave him as much as me. と云ふ時は me は him と比較したるるものにして彼れと余は同一に受けたりとの意なれども The man gave him as much as I. と云ふ時は其人と余は同一に彼れに與へたりとの意と爲るが如し以上は文典上の嚴格なる規則なれども俗語殊に普通の會話に於ては主格の名詞に對比する時と雖往々目的格を用ゆるとあり例へば He knows it better than me. 或は He did it as well as me. の文に於て me は孰れも I たらざる可からざれども普通の會話には往々斯の如く目的格を用ゆる例あり

對比する語の關係代名詞或は疑問代名詞なる時すら此規則は勿論適用す可きものなれども其代名詞の男女性なる時は主格の語に對比する時と雖習慣上目的格を用ゆ例へば Alfred than whom a greater king never reigned. の句に於て whom は king に對比せるものなれば who となる可き筈なれども習慣上目的格を用ゐて主格を用ゆるを稀なるが如し是れ固より誤れりと雖習慣上の然らしむる所なれば是非なし

Than は比較を表はす時のみに用ゆる語にして比較級の語と else, other, otherwise 及び rather の後の外は殆んど用ゆるとなし例へば Your reason is nothing else than a pretext.(汝の理由は託言に外ならず) It was no other than my friend. (其れは余の友人に外ならず) We must not act otherwise than justly. (吾人は公明なる外行動す可からず) He was a good man rather than a wise man. (彼れは賢人よりも善人なりし)の如し

Correlative conjunction は已に述べたる如く其重もなるものは though——yet whether——or, neither——nor, both——and 等にして其他純粋の Correlative coujunction と稱するを得ざれども配合を爲して一個の接續詞の如き用務を行ふものあり例へば下の如し

Such—as の配合に於て前者は代名詞的形容詞にして後者は關係代名詞なれども一の接續詞の如く用ゆ例へば an Assembly such as was never before seen on etc. の如し

Such—that の配合は定動詞の次ぐ時は結果を示すものなり例へば The position is such that all will easily perceive it (其位置は何人も容易に見得るならむものなりし)の如し

As—as の配合は形容詞或は副詞を其間に挿入する時同等の度を示すものなり例へば He is as tall as my brother の如し

As—so の配合は各之に動詞の次ぐ時は對比の意を示すものなり例へば As two is to four, so is six to twelve. (二の四に於けるは恰も六の十二に於けるが如し) As we sow, so must we reap. (吾人の播くが如く又收獲せざる可からず)の如し

So—as の配合は形容詞或は副詞等に用ゆる時は比較を以て度量を限定するものなり例へば How can you descend to a thing so base as falsehood?.(汝は如何にして虚言の如

き卑怯のものに墮落せしや)の文に於て so—as は thing と falsehood との比較を爲し之を限定するとのものにして as—as の如く單に同等の度を示すに非ず

So—as は否定的の語と共に用ゐて度の同等ならざるとを示すとあり例へば He is not so tall as I. の如し

又 So—as は次に不定動詞ある時結果を示すものなり例へば We must act so as to be useful. の如し

So—that の配合は定動詞の次ぐ時結果を示すものなり例へば He is so kind that everybody likes him. の如し so—that は其意 so—as と異ならず唯前者は定動詞を要し後者は不定動詞を要するのみ又 such—that とも意同一なれども唯其差は such は直に that に前置するか然らざれば名詞を形容するものなるに so は that に前置せざれば形容詞を形容するものにして直に名詞を形容するとなきに在り

Not—only, but—also は已に副詞の部に於て説明せり

Subordinate conjunction にして直に分詞に前置するものあり例へば Though walking very carefully, I fell down. (甚だ注意して歩みたれども余は倒れたり) If conquered, I am not disgraced. (余は打勝たれたりとするも耻辱ならず)の二文は完備したるものと認むるを得ず即ち前者に於て though の次には I was を略し後者に於ては if の次に I am を略せるものなり

上例 If conquered, I am not disgraced. に就いて聊か茲に述べひと欲す即ち if の事實に對する使用是れなり例へ

ば If I am poor, yet I am honest. の文に於て余の貧しきは事實なるに斯く假設的接續詞を用ゆるは稍解し難く見ゆ然り素と if は純粹の假設に用ゆるものなれども一轉して議論上讓與の意に用ゐ更に轉じて事實に用ゆるに至れり故に此處にては if は though と殆んど同意に用ゐたるなり

獨立句及び間投詞

間投詞は唯感情を表はす語に過ぎざるものにして別に述ぶ可きとなし

Nominative independent は情呼に用ゆるものにして其文には關係を有せず而して其格は實際定むるとを得ざれども主格と看做して用ゆ羅甸及び希臘語の如きは特に情呼格 (Vocative case) なるものあり人を呼ぶ時之を用ゆ而して英語には此格なきを以て主格を用ゆるに至れりと雖代名詞にして形容詞又は間投詞を前置詞する時は目的格とするとあり例へば O miserable me! Ah me! の如し是れ羅甸より來れる用法なり

Nominative absolute とは名詞或は形容詞にして分詞と共に一句を爲し其主格の如き位置を有するものを云ふ之を主格と看做して可なり例へば

(1) Breakfast ended, they went out for a walk. (朝餐終りて彼等は運動に出でたり)

の文に於て breakfast ended の句中の breakfast は過去分詞たる ended に對し主格の如き位置を占め且つ主文に離ると雖副詞句と爲りて之が形容を爲すものなり又 No-

minative absolute の句中分詞なくして唯前置詞或は前置詞句は副詞のみ在るとあり例へば

(2) Breakfast over, they went out for a walk.

(3) Sword in hand, he attacked the enemy.

の如し然れども是等は孰れも Nominative absolute の次に分詞たる being を略せるものなり

Nominative absolute の句は主文に離ると雖容易に之を phrase 或は clause に改むるを得例へば前例の (1) に於て Nominative absolute を一の phrase に改むれば

After breakfast, they went out for a walk.

更に clause に改むれば

When breakfast ended, they went out for a walk.

When breakfast was over, they went out for a walk.

又之を Compound sentence に變ずれば

Breakfast ended, and they went out for a walk.

Breakfast was over, and they went out for a walk.

の如し即ち Nominative absolute は clause 或は合成文の一部を節略したるに過ぎざるなり

版權所有

明治三十一年十月六日發行
明治三十一年十月一日印刷

著作者 井上十吉 東京市麹町區三番町六十九番地
發行者 河出靜一郎 東京市日本橋區通三丁目十番地
印刷者 今井健次 東京市京橋區宗十郎町十五番地
印刷所 國文社 東京市京橋區宗十郎町十五番地

發行所 成美堂書店 東京市日本橋區通三丁目

定價金七拾錢

133
136

083208−000−6

133−136(洋)

英文典講義

井上　十吉/著

M31

DAH−0695

133
186